

No.	22-1002	
研究課題名	IL-12発現型がん治療ウイルスを用いた悪性黒色腫のウイルス免疫療法開発	
研究代表者	奥山 隆平（ 信州大学・教授 ）	
研究組織	受入教員	藤堂 具紀（ 東京大学医科学研究所・教授 ）
	分担者	藤堂 具紀（ 先端がん治療分野・教授 ）
	分担者	田中 実（ 先端がん治療分野・特任教授 ）
	分担者	伊藤 博崇（ 先端がん治療分野・助教 ）
	分担者	古賀 弘志（ 信州大学医学部附属病院皮膚科・講師 ）
	分担者	中村 謙太（ 信州大学医学部附属病院皮膚科・助教 ）
	分担者	内山 彩（ 信州大学医学部附属病院皮膚科・技術補佐員 ）
	分担者	松本 和彦（ 信州大学医学部附属病院臨床研究支援センター・特任教授 ）
	分担者	芦田 敦子（ 信州大学医学部附属病院臨床研究支援センター・助教 ）

申請者（研究代表者）

奥山 隆平

東京大学医科学研究所国際共同利用・共同研究拠点事業  
共同研究報告書（年次終了・研究完了）【国内】

共同研究報告（年次終了）

新規の癌治療法としてがん治療用ウイルスの開発を進めるため、私たちはヒト単純ヘルペスウイルスの遺伝子に改変を加えたT-hIL12の医師主導治験（第Ⅰ/Ⅱ相）を進めた。信州大学医学部皮膚科と東京大学医科学研究所先端がん治療分野が情報交換を密に行い、共同で治験を進めた。第Ⅰ相で安全性の評価を既に実施しているが、First in human試験であり、T-hIL12の有害事象の発生に留意し、慎重に治験を進めた。有効性を検討するため第Ⅱ相では18例の組み入れを予定しているが、2施設間での連絡を密にはかるとともに十分意見交換して治験を進めた。個々の症例の有効性の評価ならびに有害事象への対応に関しては、メールや電話で頻繁に情報交換を行なった。

さらに、抗腫瘍効果の発現メカニズムを明らかにするため、被験者の血液や腫瘍組織等の臨床検体を収集し解析を進めた。